

第二十回東日本電協定期委員会を開催する

今年より日帰り開催とする

二月三日十三時より、新橋福祉会館において第二十回国労東日本電気協議会定期委員会が開催されました。昨年までは一泊で交流会形式の意思統一も行ってきましたが、今委員会より「職協交付金制度」の導入により経費節減のため、日帰り開催という短時間での討論及び意思統一を行われるという厳しい条件となりました。委員会は役員、委員、傍聴者あわせて三十人の参加者で北島副議長の司会で開会し、議

長には東京・八王子地区本部選出の岡部委員が就任し、職場の取り組みと地区本部の取り組みを挨拶の中で報告がされました。そして来賓として出席



され

た東日本本部高野書記長より、08春闘について、JR東会社と貨物会社に要求を提出したことと併せて、旅会社には制度改善要求も取り組み、署名の提出や今後の大衆行動とあわせて要求獲得にむけ全力をあげる。また①施策検証委員会の設立をし、これまでの合理化の問題点を職協ごとにまとめ6月を目的に取り組み②36条協定の取り扱いについて③JUNJREの問題について④ライフサイクルについて⑤新たな再雇用制度について、現状をそれぞれ報告された。また、一括和解以降のアンケート調査も取り組みながらブロック分会長会議などで意見をもらい、会社への申し入れをおこなっていききたい。組織の拡大では若い組合員を獲得していくのか、新規採用者や契約社員へも加入を勝ち取っていききたい。不採用事件については、一・一・三〇集会に見られるように四者四団体の団結で解決への道筋ができてきた。2月、3月行動に集中し、早期解決を目指したい。と多くにわたって報告をうけました。

その後、中澤議長よりの挨拶では、安全安定輸送の取り組み、①首都圏輸送障害対策について②設備メンテナンス6年が経過しての問題点と交渉内容の再確認の重要性③組織強化拡大については電気

関係で2名拡大したが、大量退職時代を迎え、東労組の混乱のこの時期に拡大を④定期委員会の持ち方について、交付金制度の中、日帰りで行わざるを得ない。との挨拶があり、引き続き経過、方針提起、規約の一部改正、新たに交付金制度導入に伴い、電協として初めての予算案の提案がありました。そのあと職場報告や各地方から報告がされました。

各地方からの発言

【東京】分会活動の報告。首都圏輸送障害に伴う即応体制について。JUNJREの問題点について。昇進試験への対応について

【秋田】輸送障害時の指令の対応と現場の安全問題について。組織拡大の取り組みについて

【盛岡】メンテナンス合理化でテムスがなく直轄対応に
なっていること。切替工事などで5・10勤務ということ
で夜間長時間拘束になっている問題。使用開始判定のチェック表の問題。

【仙台】組織減の状況



とMCが地域分会で職場の問題が話しにくい。昇進試験の合格状況。業務中の駐車違反が個人責任にされている。

【水戸】大量退職により、三分の二以上が平成採用で、職名と職責が一致していない。36協定問題で勤務パターンの変更。土浦電力メンテナンスセンター宿直体制導入。J-NJREの問題点について。テムス感電事故について。

【千葉】首都圏輸送障害対策の拠点配置で、一年で2回だけ出勤、必要性がない。新システムの教育も限られた人だけ、障害に不安。業務で忙しい人とそうでない人アンバラがある。境界作業について。【新潟】工務協が集まっているが、出向している話し合う機会が少ない。東労組から脱退、JR労組の役員はほとんどが平成採。運輸区が主体になっている。

【高崎】通信職場で超勤が多く、33発動も多かったが、支社指導で三分の一くらいになっている。拠点配置は北本が昨年四月から、今年四月には熊谷も入る。新幹線保守作業の見直しということで、線閉責任者の必要ないといっているが問題がある。【貨物】出向の年数が支社で違う。出向先はきついが手取りでこまかされている。出向者の適正検査の未受験や、表彰などの問題。新賃金制度の導入と一括和解問題も進んでいるようだが、遠距離配転の問題も抱えている。

【盛岡】設備メンテナンスで出向連をつくったが、地方ではテレホンセンターなどにも多くいる。第三セクターの出向者はどこで交渉すればいいのか。出

向連に加入していない人たちの労働条件を改善していくのか、国労として大きく捉えて全体的に扱ってもらいたい。

【電車線】メンテナンス合理化などの交渉の内容が多く職場で曖昧にされている。ルールが守られているところとそうでないところがある。検査でも数値管理もしていないところもあり、要員をどう確認していくのか、交流会の前に各系統の討議も準備していく必要がある。

*出向連については、昨年四月の駅のあり方でも出向者がでていて、昨年総会でも話は出された、今後エルダー社員の問題もあり、検討していくことはなっている。すでに地方では営業関係を含めたところもある、労働条件の改善については一度要求を集約して本社に出してきたが、一部改善された部分もあるが、連夜作業などについては改善されていない。各支社、各会社ごとに改善されている部分もあり、東日本本部として一律にしていくということには慎重に扱っていききたい。昇進試験問題では、十数回受験しても合格しないというのを聞いている。会社が恣意的に合格させていないのではないか。どう改善させていくのか、運動として和解の趣旨を検証していくのか、今後も取り組んでいきたい。

*境界作業の見直しや切替時の勤務体型的見直しなど、検証委員会も開催されていく中で長時間拘束の問題もあわせて、検討していく課題と考えている。使用開始判定についても整理された文書があるはずなので、再度確認してほしい。

このような意見を受けて、中澤議長は、①メンテナンス合理化の見直し②安全安定輸送問題③昇進試験問題④労安法、労基法の点検⑤組織強化拡大の五点について集約を行い、今年度の方針、予算案を全体の拍手で確認しました。

伊藤副議長勇退、また新たに会計監査を選出

役員改選においては、長年電気協議会の役員を担ってきた、伊藤副議長（秋田地電協）が、今年定年退職を迎え、エルダー雇用で日本電設に行くことになり、今委員会でも勇退ということで、退任となりました。大変ご苦勞様でした。新副議長には、同じ秋田地電協の高橋英樹さんが選出されました。他の役員については、再任となりました。また、新たに会計監査として、岡部貴一（東京）、梅沢達也（八王子）両氏を選出し、全体で確認されました。

その後、今年の職場交流会開催受け入れ準備地電協の



東京ブロック井上副議長より、開催日程がホテル事情により、7月下旬か8月に行いたいとの報告があり、議長解任、閉会挨拶を受け、短時間の委員会となりましたが、最後に中澤議長の団結カンパローで定期委員会を終えました。

二〇〇七年度電気協議会役員

議長 中澤 唯(神奈川)

副議長 北島利則(千葉)

副議長 高橋英樹(秋田)

副議長 岸 三男(高崎)

副議長 榎戸 輝(東京・貨物)

事務長 高橋 広(神奈川)

各分科長

強電分科長 後藤寿昭(八王子)

弱電分科長 佐藤寿喜(盛岡)

新幹線分科長 千葉 薫(仙台)

貨物分科長 木元敏彰(仙台)

事務分科長 小山秀夫(東京)

信号分科担当 大角 浩(八王子)

通信分科担当 戸野塚昭雄(東京)

変電分科担当 長谷部隆幸(大宮)

配電分科担当 数野正明(八王子)

会計監査

梅沢達也(八王子)

岡部貴一(東京)